

表1 在日露国籍者数の動向（1910年－1941年）

(人)

年	露国籍者総数 1)	北海道 1) 下段：函館 2)	東京 1)	神奈川 1) 下段：横浜 3)	兵庫 1) 下段：神戸 4)
1913 大正 2	105	7 10	30	22	2
1914 大正 3	107	13 12	22	31	2
1915 大正 4	150	16 10	31	34	18
1916 大正 5	263	26 11	44	47 47	100
1917 大正 6	439	28 12	85	172 166	115
1918 大正 7	687	47 41	80	364 338	101
1919 大正 8	1102	49 25	141	576 503	239
1920 大正 9	1234	88 67	198	663 660	175
1921 大正 10	1051	- 63	-	-	-
1922 大正 11	834	135 75	138	358	105 96
1923 大正 12	566	108 99	90	2	235 192
1924 大正 13	818	160 80 *110	272	14	223 201
1925 大正 14	1176	233 93 *157	329	46	393 346
1926 大正 15 昭和元	1364	- 106 *116	-	-	- 342
1927 昭和 2	1419	197 100	376	87	433 384
1928 昭和 3	1473	192 106	400	89	455 404
1929 昭和 4	1527	182 105	418	114	491 412
1930 昭和 5	1666	187 116	533	120	496 412
1931 昭和 6	1561	164 99	491	135	410 213
1932 昭和 7	1537 (1167/370)	100 83	325	116 (33/84)	350 361
1933 昭和 8	1479 (1209/270)	122 (30/92) 78	448 (318)	111	364 225
1934 昭和 9	1457 (1217/240)	103 (18/85) 49	464 (339)	157 (36/121)	436 (47/389) 389
1935 昭和 10	1529 (1248/281)	114 (23/91) 64		135	368 385
1936 昭和 11	1562 (1294/268)	86 36		161	399 357
1937 昭和 12	1546 (1310/236)	78 34		163	399 399
1938 昭和 13	1465 (1299/166) 390
1939 昭和 14	1501 (1305/196)	80		207	441 305
1940 昭和 15	1503 (1247/256)	...		225	390
1941 昭和 16	1178 (1093/85)	54		239	460

注：1931年以降のゴシック横のカッコ内の数字は、（旧露国籍者／ソ連国籍者）を示す。
 出典：1）『内務省統計報告』第32巻－46巻1990－1991年。2）『函館市史 統計資料編』1987年。ただし、*印は『函館商業会議所年報』。3）『横浜市統計書』1921、1922、1925年。4）神戸『神戸市史』より抽出。

表2 ウラジオストク-敦賀間の露国籍者の往来数の推移

(人)

年	1916	1917	1918	1919	1920	1921	1922	1923	1924	1925
ウ-敦	1,054	2,273	4,593	1,953	1,232	732	820	167	35	179
敦-ウ	1,297	2,044	2,991	2,268	1,271	1,152	676	150	84	175

出所：『特高警察関係資料集成』第15巻、191頁。

【資料1】

- ①ルーマニア国コンスタンチ市。船長。トドル・ラード（当25年）
- ②蘇聯邦極東州ブラゴベシチェンスク市。水夫。ウラジムル・ネストロフ（当22年）。
- ③蘇聯邦クリム県 ヤルチェンスキー郡。水夫。ドミトリー・チェツウリン（当25年）。
- ④ウクライナ自治国 ポルタワ市エカテリンスカヤ街。機関士。アンドレイ・ノビコフ（当25年）。
- ⑤蘇聯邦ポルタワ県ニポロチャンスキー郡ウイシスコイ村。水夫。アレキサンドル・キリチコ（当25年）。
- ⑥蘇聯邦オリロフスキー県イデコジューゲア村。水夫。アレキセイ・コロバフ（当26年）。
 - ・居住地：沿海州シジマン（筆者註：シジミのことか？）。
 - ・脱出の動機：常に「官憲ノ虐使ト食料ノ欠乏ニ悩ミ脱出ノ機ヲ窺」っていた。
 - ・脱出の方法・経路等：4月29日、沿海地方の「シジマン」港から「同地駐在ゲペウ隊長労働監督官其他官吏4名」が彼らの乗り組んだランチに乗り、「海獣狩猟ノ目的」で「シジマン附近ヲ航海」していたところ、「流水ノ為メ航行不能ニ陥」った。「前記官吏ハ附近ニ上陸」。しかし「時恰モ夜間」。「管理ノ視線ヲ離」れる「好機トシ」、「国外遁走ヲ企テ上海ニ向ケ進路ヲ採」ったものの、「途中暴風ノ為舵ヲ損シ」やむなく「風波ニ」任せて「漂着中漸ク六月三日樺太名好郡名好西柵丹海岸ニ漂着」。「破損個所ヲ修理ノ上上海ニ向ケ出帆」したが、「機関ノ故障ノタメ再ヒ樺太泊居郡泊居村追手ニ漂着」。「出帆後遂ニ樺太野田町鶴巢海岸」に「漂着夜陰ニ乗シ密入国」したものの。

(名前は原文のままで、*は不鮮明文字を示す)

出所：外務省記録。1931年9月25日青森県知事発青特外第800号。K.3.6.1.1-1。

【資料2】

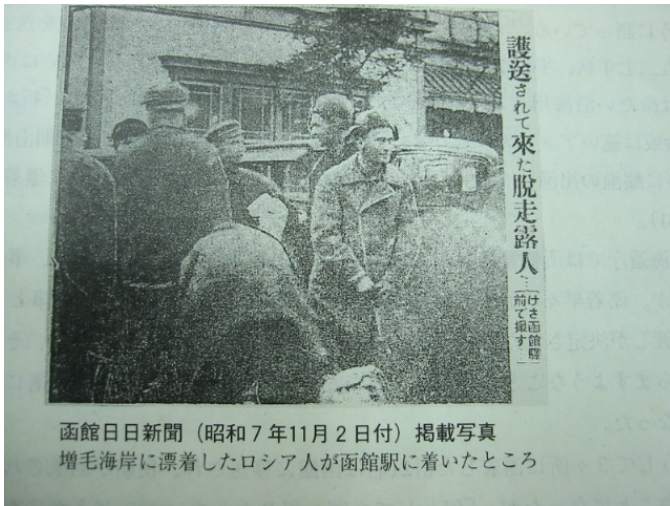
- ①ビノグラードフ И.И. 48歳。アストラハン県。帝国・白衛軍下士官。1930年にサポタージュにより追放、10年の刑。特別漁民として北部沿岸に送られた。
- ②モクシェエフ Г.М. 35歳。トボリスク県。オムスク市にて白衛軍守備隊に勤務。妨害罪ならびにサポタージュにより5年の有罪判決。
- ③チュモシェンコ Х.И. 33歳。ミンスク県。赤軍第405機関銃隊に勤務。コルホーズ行きを拒否したため、3年の有罪判決。
- ④カラニニコフ К.П. 28歳。コストロマ県。司祭の息子。コルホーズ行きを拒否したため、6年の有罪判決。
- ⑤スラボデニユク И.Н. 22歳。カメンツポドリスク県。クラーク（富農）追放の際抵抗したため4年の有罪判決。

出所：『スローヴォ』（上海）1932年12月9日。

【資料3】

- ①フリッツ・アンソヴィチ・ラスマン（1893年生）。ラトビア系ソ連人。ウラジオストク市ボロジンスカヤ街51。
- ②リジア・トロフィモヴナ・ラスマン（1901年生）。①の妻。
- ③アンナ・アンドレーヴナ・アサチフ（1893年生）。ウラジオストク市ヴェルフネ・ポルトーヴァヤ街。
- ④ゲオルギー・ステパノヴィチ・アサチフ（1914年生）。③の長男。

出所：『外事警察報』第36巻153-154頁。



函館日日新聞 1932.11.1



秋田魁新報 1932.12.2

「夕陽のみえる日露友好公園に立つ「露国遭難漁民慰霊碑」（秋田県由利本荘市）



